

選挙啓発授業報告書

平成19年3月

山形市立第五小学校
山形県選挙管理委員会
山形県明るい選挙推進協議会

目 次

1	授業報告	・・・・・・・・・・・・・・・・	1	頁
2	指導案	・・・・・・・・・・・・・・・・	3	頁
3	素材	・・・・・・・・・・・・・・・・	9	頁
4	児童の感想	・・・・・・・・・・・・・・・・	11	頁

1 授業報告

選挙の授業を終えて

山形市立第五小学校

6年3組担任 小関 明美

選挙の言葉は知っていても選挙のことはほとんどわからない子ども達です。

現在、小学校では学級委員長や児童会長などの児童会役員を決める選挙はありません。

「責任を持って人を選ぶ」ということがどういうことなのか、この授業を通してその子なりに考えてもらえればと思いました。

授業は「1枚の絵」からスタートしました。選挙投票所の様子を表した絵です。

大人が見たら、ごく普通の当たり前の絵です。難しい政治の内容や選挙を学習するのに、難しく迫ったら子どもは興味も関心もわかないだろうと考え、シンプルに1枚の絵からスタートすることにしましたが、正直、不安でした。

「絵を見て、選挙の手順やあり方、努力・工夫していることがわかるだろうか。」

「調べる意欲につながる『どうして?』という疑問を出してくれるだろうか。」

授業が始まり「1枚の絵」を提示した時、驚きました。子ども達目が輝き始めたのです。「選挙かな……座っている7人は誰?……」などと何か感じたのかもしれません。子ども達は、気づいたことやわからないことをたくさん書いてくれました。話し合いが始まりました。気づいたことを発表する中で選挙の様子が鮮明にとらえられていきました。様子が鮮明になると「わからないことも」も鮮明になってきました。学習カードに書いていなかったことも出てきました。

予想した「問い」がほとんど出てきました。子どもって、本当に物事を素直に捉えるし、わからないことを素直に表現すると改めて思いました。選挙の「厳しさ」と「できるだけ多くの人に投票してもらいたい努力と工夫」を捉えることにつながる「問い」もしっかり出されました。

拡大した絵の中に「問い」を書きました。授業終了後、子ども達は真剣にノートに書いていました。選挙に対し関心を持ち、わからないことを調べようという意欲が出てきたことを感じました。

調べていく中で、なぜ選挙は厳しいのか、なぜ投票率が下がってきたのか、投票率を上げるために選挙の仕事に携わる人がどんな努力と工夫をしているのかについて確認することができました。「責任を持って人を選ぶ」ということの意味は当事者にならない限り実感はできないでしょうが、「選挙は大切だ！自分は必ず選挙に行くぞ！」という思いは強くしてくれたようです。

「責任を持って人を選ぶという選挙」の社会的意味を認識していく最初の授業です。これが契機となり、今年度の統一選挙や身近にいる議員さんの仕事、国や地方の政治にだんだんと関心を持ち、その中での自分の生き方を考えることのできる人間になってくれることを願っています。

2 指導案

小学校における「選挙」に関する授業の指導案

2007 2.7

「わたしたちの暮らしと政治の働き」 (6年社会科)

～みんなで考えよう「選挙」～

山形市立第五小学校 6年3組 25名

指導者 担任 小 関 明 美

1 選挙の授業をするにあたって

子どもに「選挙」に関する興味・関心を持たせることが大事

6年生の後半に政治学習を行うことになっている。歴史学習ではあんなに生き生きと考え調べていた子どもたちが、政治学習に入ると急に意欲を示さなくなることが多い。その原因について、子どもたちは、「政治は大人がすることだから、僕たちには関係ないよ。」「言葉や決まりが難しくてよく分からない。」「覚えることばかりで、考えたり調べたりすることが少なくて、つまらない。」という場合が多い。

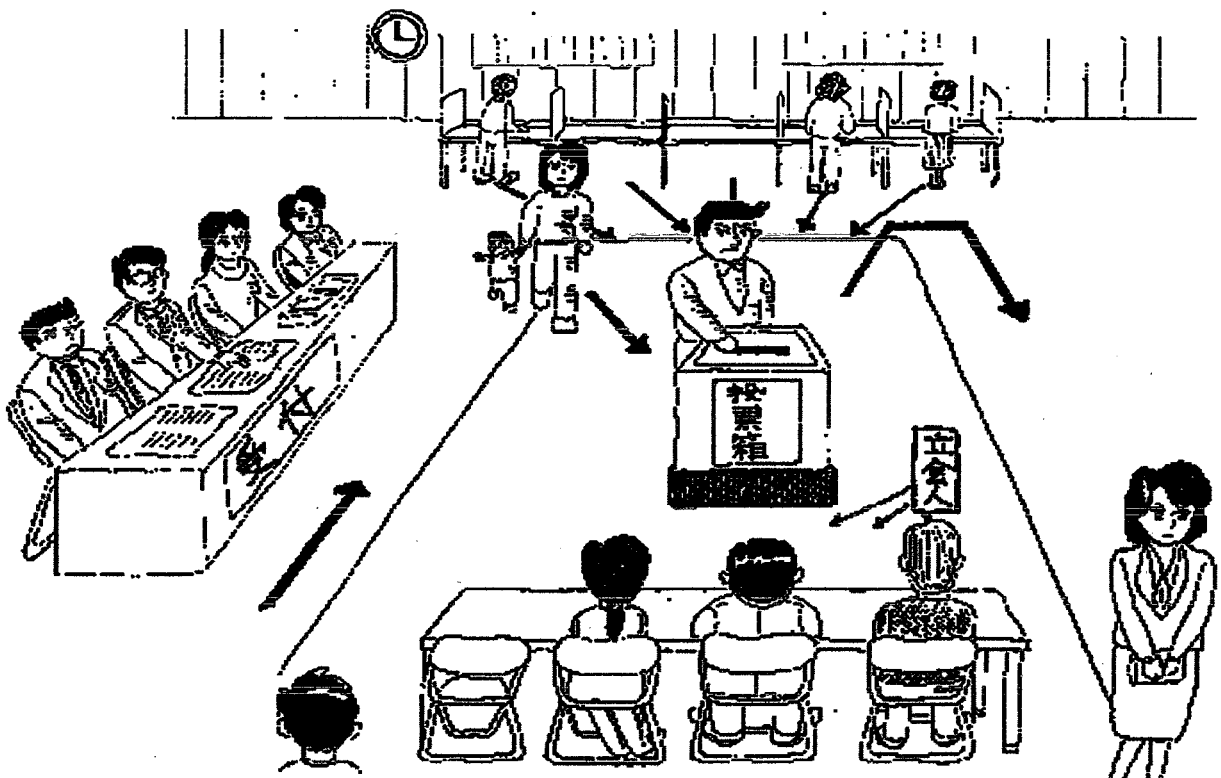
現在、投票率の低下や政治への無関心など、大人の政治離れがしばしば問題となる。しかし、政治は、全ての国民にとって自分たちの暮らしをよりよくするために必要不可欠なものであり、子どもたちにとっても無関係なものではない。

国や県や市町村の政治を担う人たちが「議員」であり、この議員を選ぶのが私たち国民による選挙である。そこで、国や県や市の政治を行う議員を選ぶ「選挙」に関する興味を持たせることが政治に関心を持たせることにつながると考えている。

2. 指導計画 (細案)

1枚の絵から子どもの興味関心を喚起する。(1時間:本時)

(1) まず、子ども達に次のような投票場の写真を提示する。



(2) 絵を見て何をしているところか考え、話し合う。

(3) 絵に色を塗りながら「発見」したこと、「わからないこと」(「はてな?」)を見つけノートに書く。 ★……はてな ◎……発見(わかったこと)

(4) 見つけた「はてな?」や「発見」を出し合い、それについて考える。

★…はてな? ○…予想

★①立会人の仕事は何か。だれがするのか。

- みはり
- 市役所の人、投票で選ばれた人

★②投票時間は決まっているか。

- 決まっている。(7時~20時)

★③全国一斉の選挙の時など、何を使って時間を計るのか。

- ラジオの時報

★④投票用紙はだれが持っているか。

- 本人、受付の人

★⑤しきりがあるのはなぜか。

- まねしない。のぞかれない。

★⑥出入り口が決まっているのはなぜか。

- 混雑、ずる、おしゃべりを防ぐ。
- 係の人が間違いにくくするため。

★⑦場所はどこか。

- 市や県が指定した場所(公民館や市役所など)

★⑧受付に4人いるけどどんな仕事をするのか。だれがするのか。

- チェック、投票率調べ、用紙渡し
- 市役所の人

★⑨投票できる人はどんな人か。

○20歳以上の人。(次の日の誕生日までOK) 市に住んでいる人。

★⑩壁に書かれているのは何か。

○立候補した人の名前。

★⑪選挙の種類はあるのか。

○衆議院議員選挙 参議院議員選挙 市会議員 県会議員 市長選挙 知事選挙

★⑫だれでも立候補できるのか。

- 衆議院議員＝満25歳以上
- 参議院議員・知事＝30歳以上
- その他はすべて25歳以上

★⑬投票所に一番最初に来た人の特典は

○投票箱の中が、空なことを確かめることができる。

⑭入場券をなくしたら投票できるのか

- 投票できる。(一人でも多くの国民に投票してもらいたい)
- 受付で「住所・名前・生年月日」を言って確認したり、免許証で確認して投票できる。

⑮投票日以外に投票できるのか

- 不在者投票ができる。
用事、病気、出産 前日まで毎日(8:30～20:00)

⑯手が不自由な人はどうやって投票するのか

- 職員が「代理投票」をする。
2名つきそう 1名は名前を書き 1名は不正がないか確認する。

「選挙」や「投票」という言葉は知っていても、少しつつこんでみると、子どもたち自身、何も知らないということがよくある。教科書や資料集では解決できないことが多い。子どもの純粋な問題意識を大事に扱い、その問題を解決するための調べ方を考え、各自調査にいくことになる。この調査活動こそが、子ども達を「選挙」と「政治」に近づけていくことになる。

わからないこと（問題？）の調べ方を考え、調べ、まとめる（2時間）

(1) 自分なりの方法で調べる。

子どもの調べ活動の事例

- ①お家の人に聞く
- ②町内会の会長さんや役員の人に聞く
- ③県庁や市役所に行って聞く、調べる。（選挙管理委員会）
- ④地区の議員さん（市会議員や県会議員）に聞く
- ⑤地区の選挙事務所に行って聞く
- ⑥その他

(2) 調べたことをまとめる。

(3) 未解決の「問題：はてな？」について調べたことを出し合う。

(4) 調べたことについて検討したり、新たな「問題：はてな？」を発見したりする。

(5) 選挙（投票）に対する自分なりのイメージを出し合う。

子どもたちは調べたことを話し合う中で次のような事実も捉える、

- ・字を間違えたり、2人以上書いたり、無関係な事を書いたりすると無効になる。
- ・時間厳守で行われる。
- ・受付では2回のチェックを受ける。
- ・人のを見てはいけない。
- ・不正がないような仕組みを考えている。
- ・字の書けない人もできるようにしている。
- ・入場券をなくしても投票できるしくみを考えている。
- ・夜の8時まで投票できる。
- ・投票日でなくても投票できる。
- ・20歳になった人だけ。次の日の誕生日までOK
- ・住民登録をして3ヶ月以上たたないと選挙権がもらえない。 など

多くの子はこの事実から「選挙は厳しい（厳格だ）」というイメージと、一人でも多くの市民に投票してもらいたいと願いを捉えることができる。

(6) 選挙を自分の問題として考える。

- ①未解決の「問題：はてな？」について調べたことを出し合い、検討する。
- ②選挙はどうしてこんなに「厳しい」ものであるのかを考える。
- ③山形県や市の近年における選挙の投票率から思ったことを出し合う。

選挙のしくみを学ぶ（1時間）

※山形県選挙管理委員会作成のリーフレットを活用して・・・

- (1) 学校の中で、物事を決めていくということ。
- (2) 社会の中で物事を決めていくということ。
～県や市町村における議員さんの仕事～
- (3) 議員さんが誕生するまで
- (4) 学習の感想を書く

感想例 1

(選挙が厳しい理由)

ぼくは、なぜ選挙が厳しいかは、選挙が自分の町の将来を決めるからだと思う。「選挙はまじめにやってほしい。」という思いが厳しさの中にはあると思う。選挙は自分たちの生活と関わっているので、真剣に自分の考えを持って投票して欲しいし、みんなの意見を政治に生かすためにも、公正に選挙をして欲しいから、厳しいんじゃないかな。

感想例 2

(一人でも多くの人に投票してもらおう工夫)

選挙はとても厳しい中で行われているが、でも、できるだけ多くの人たちが投票してもらえるように、いろんな工夫をしていることがわかった。字が書けなくても、当日選挙に行けなくても、入場券を無くしても投票できるようにしてあるのはすごいと思った。また、最近になって投票時間を長くし、夜の8時までしたということを知り、努力もしていることがわかった。

感想例 3

(大事な選挙に参加しよう)

山形県の投票率は昔に比べて低下しています。特に若い人が選挙にいかないようです。選挙とは、自分たちの意見を生かせるゆい一の場所なので、1びょう1びょうを大事にして欲しいと思います。半分も投票に行かない人がいるなんて情けない気がします。もっと、政治に参加するべきだと思います。

私は20歳になったら選挙とは人ごとではないので、絶対投票しようと思います。選挙はとても大事なものなので、「厳しいのも自分たちのためなんだ。」と思いました。

※「政治」は子どもたちにとって無関係で遠い存在である。だから「選挙」にも関心がない。そのまま大人になる。大人になっても関心がない。だから、選挙にいかない。しかし、「選挙」の学習を、調べ活動を取り入れながら行う中で、「政治」は身近でとても重要なものへと変わっていくはずである。

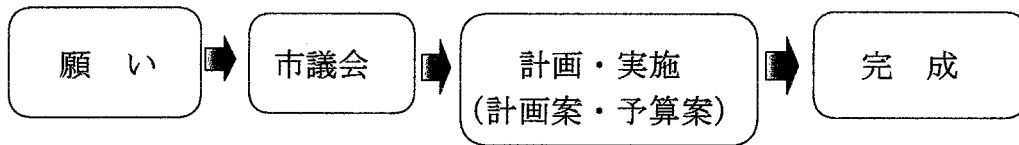
このような学習が、発達段階に応じて内容を変え、小学校6年、中学校3年、そして高等学校でも実践してほしい。

【附則資料】

単元全体の構造

単元：わたしたちの願いを実現する政治（10h）

(1) 生涯学習センターができるまで(3時間)



他に、市議会ではどのようなことが話し合われるのか

お金はどこからでるのかな？

このようなことを決める議員はどのようなにして選ぶのかな？

市議会のことをもっと知りたい

税金について考えよう

選挙について考えよう

(2) 市議会について、学区の議員さんにインタビューする。(1時間)

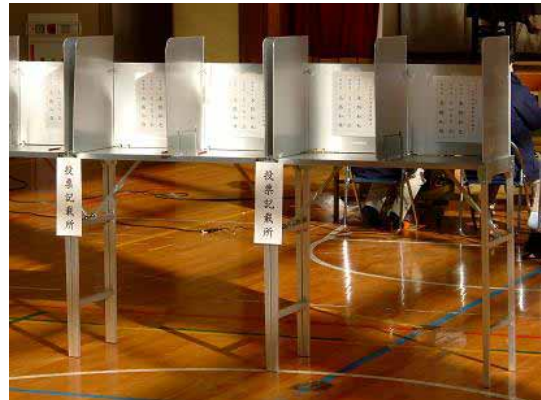
(3) 税金の使われ方を調べる。(2時間)

(4) 選挙について考える。(4時間：本時)

3 素材



投票所の様子



投票記載台



点字記載台



投票所の入口

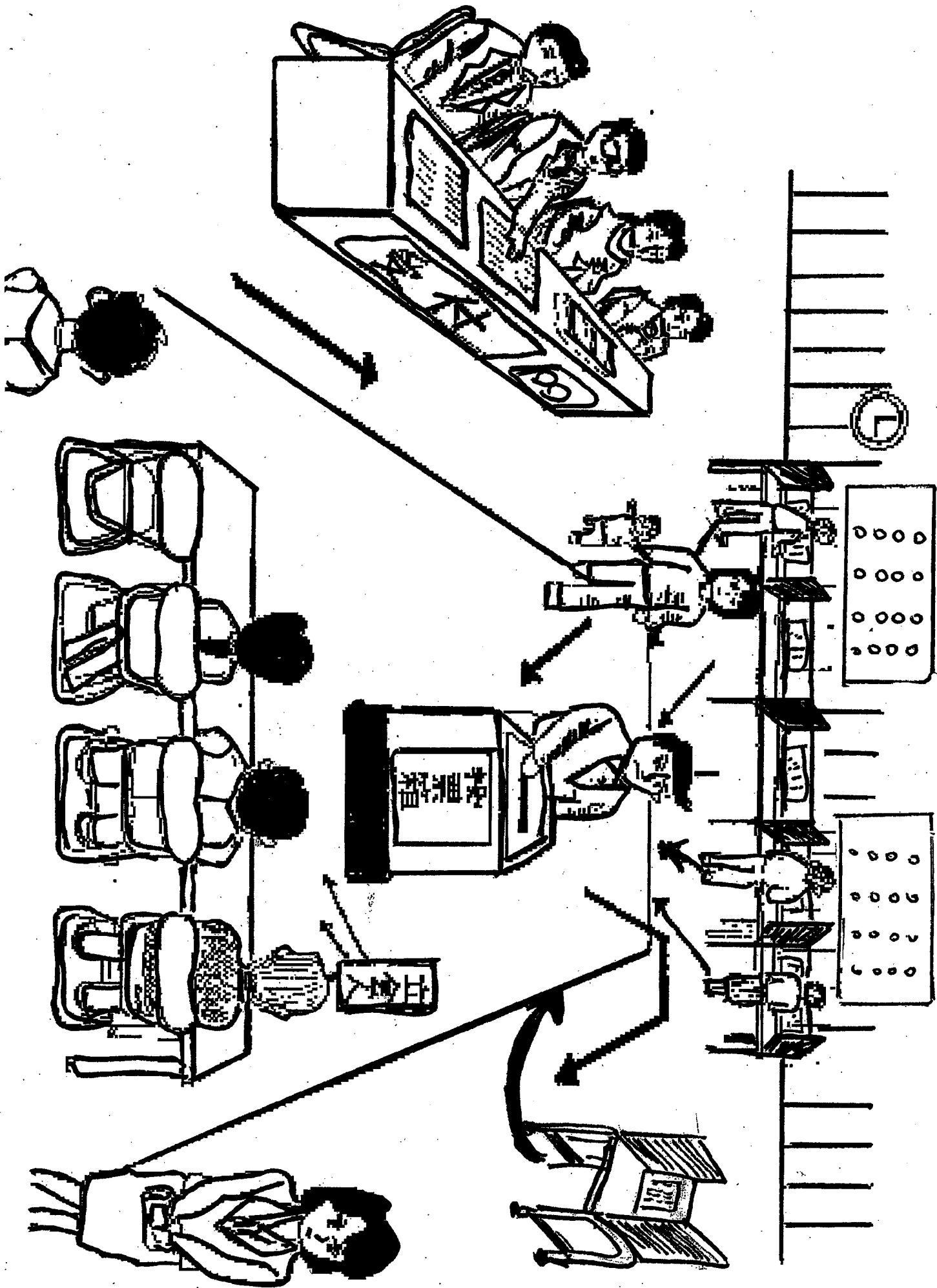


名簿チェック



投票

(山形市選挙管理委員会提供)



4 児童の感想

感想 1

大人がやっている「選挙」というものは、最初はふつうの箱の中に人の名前を紙に書いて入れるだけという簡単な物だろうな。と思ってたけど、実際調べてみると、選挙には、たくさんの秘密があることが分かった。まず大事なのが、若い人の投票率が年々下がってきているという事、たった数分で終わるのに「めんどくさい」、「自分には関係ない」とか、そういうおかしい考えを持つ人がたくさんでてきているけど、選挙管理委員会の人々は、たくさん工夫して、どうにかして投票率を上げようとしているということもわかった。音楽を流したりして、がんばっているということがわかった。そして、海の上からでも投票ができると知ってびっくりした。船から、FAXを使って投票をしていると知ると、「そこまでやるかあ〜！」と、またびっくりしました。他にも島の人々は船に乗ってやってきた投票箱に投票するそうです。そこまでやると言うことは投票・選挙というのは、とても大事な事とわかった。自分の町を変える人を決める選挙。立候補する人も責任が必要だけど、投票する人にも責任があるんだな〜。と思いました。もしぼくが投票できるようになったら、投票を1つの義務として、しっかり投票していけたらいいです。

感想 2

はじめはあんまり投票のことも知らなかったし、興味もなかったんだけど、教えてもらったり、調べたりしてだんだん選挙の仕組みもわかってきて、たくさんの人に投票してもらうためにいろいろな工夫があつてすごいと思ったし、身体の不自由な人のことも考えて不自由な人でも投票できるなんてびっくりした。立ち会い人のことも最初はなんているのかなあと思っていたんだけど、みはりをしたり、しっかりと投票するためにこんないろいろなことをするなんて始めて知ったことだし、選挙はすこし厳しいなと思った。

だけど最近若い人の投票率がさがっていることもわかった。若い人で投票する人がだんだんへってきているのは政治に無関心だったり選挙場がおかたりめんどうだったり自分勝手な理由でこないなんて選挙のための工夫をいろいろ考えたり実行している選挙管理委員会の人たちに失礼だし、できるだけやってほしいなあと思う。選挙について勉強してちょっとずついままであまり興味がなかった社会のことや市についてもっとくわしいことが知りたくなった。むずかしいけど、調べたりしてわかったことはおもしろかった。私も将来はしっかり投票する大人になってそれをずっと続けたいと思う。

感想 3

最初は、選挙のことは、全然わからなかったし、選挙会場にもいったことがなかったけれど、お家の人や、選挙管理委員会の人から聞いているんなことがわかった。若い人があまりこないのは、やっぱり自分に関係ないと思っているんだと思いました。20才から、投票できるようになっていても、若い人が投票してくれなかったら投票率もさがると思います。

選挙管理委員会の人が出てきて、その時会場の不思議に思ったことがたくさんあって、でも、選挙管理委員会の人、『投票箱がなぜ1つだけなのか』ということと、立会人やしきりのある理由などたくさん教えてくれたので、いろいろな選挙の仕組みがわかりました。お年よりの人や体が不自由の人のために、いすにすわれるような工夫がしてあったりと、選挙会場には「たくさんの人にきてほしい」という思いでいろいろな工夫をしているんだと思いました。

選挙会場からはなれた所からでも投票ができると聞いてびっくりしました。はなれた所でも、前日などに投票するなんて聞いたことがなかったので、選挙ってすごいなあとと思いました。選挙会場には、たくさんの方の工夫をしているのに、若い人は、投票しないなんて人まかせだと思いました。選挙は、とっても大切なことなんだと思います。私は、若い人も投票して、もっと投票率があがればいいと思いました。

感想 4

選挙の授業をして、選挙とはたくさんの方が選挙をできるようにたくさんの方の工夫がしてあって、自分たちのために選挙があって、それをするためにたくさんの方の工夫があるなんて、すごいと思いました。

工夫は、たくさんの方ができるように時間を延ばしたり、目がわるかったり、手足がふじゆうな人もできるように、点字や受けの人が2人使うなど、といろいろな工夫がありました。ほかにもずるをしないようにと、立会人がいたりほかにもたくさんの方の工夫があってすごいな。そこまでする選挙も、そこまで大切なものなんだなととても思いました。選挙は、たくさんの方たちがいてするものができるものなんだなとも思いました。

選挙は自分たちの願いをかなえたくてあるもので、人まかせじゃだめなんだな、自分のためのものなんだな、工夫があってできるものなんだなと思いました。

感想 5

私は親と一しょに、選挙をしている場所に行ったことが何回かあったんだけど、そのときは、選挙についてあまり深く考えませんでした。でも改めて選挙について考えてみると色々な疑問などがうかんできたりして、とても楽しかったです。

とくに、1つだけはなれている、書く場所は、体の不自由な人が使うことが分かって、らくに投票しやすいように工夫してあるところが「みんなのことを考えてくれてるなぁ」と思いました。これは、投票率をのばすためにやっているのかな？と思いました。

最初、選挙をやっている所を見たときは、特に何も感じなかったけど、立会人とかの見張りをする人もちゃんとして、厳しい感じがします。最近では、若い人の投票率が下がっていて、そういうのを見ると「自分たちの代表を決めるのに、自分の意見を投票しなくていいのかな？」と思います。なので、私が20才になったら、選挙はちゃんと行きたいと思っています。

感想 6

社会で選挙の学習をして、政治に興味をもちました。研究授業で質問をたくさんして、いろいろなことを教えてもらったのがすごく楽しかったです。それで、パンフレットの投票率を見て「なんでこんなに低くなっているのだろう」とか、「若い人の投票率は、全体にもひびいている。」など、頭の中でいっぱいでした。「投票所の工夫はたくさんあるのに、何て無責任だ。」と思いました。

投票所の仕組みは、足や手、目や耳などの不自由な人のための低かったり、受付の人が変わりに書いてあげるといふものや、投票箱に二枚入れたりしてないか立会人がみている、などの投票はたくさんほしいけど、いたずらなどには厳しくしていることがわかりました。後、選挙管理委員会の人々が、投票の紙を数えているのはすごく日数がかかる作業だと思いました。

おもしろいと思ったので、1人だと無投票で決まるということと、同点の場合、再投票かと思いきやくじで決めてしまうのは、そのままでいいと思いました。

「選挙は自分に関係ない」など思っていたら大人になってわからなくなったらださいので、こういうことを知るには大事だと思いました。

感想 7

ぼくは選挙には少し関心はあるけど、分からないことがたくさんあって調べることもありませんでした。でも選挙の学習をしてぼくの知らないことや工夫がいっぱいあって障害者の人たちのために小さな机を使ったり、点字やつきそいがきたりたくさん工夫がされてびっくりしました。ぼくが一番気になっていた。立会人のこともくわしく知ることができました。20才ぐらいの人は投票する人が少ないと聞いてやりやすいように工夫しているのにひどいと思いました。病気の人にはしょうがないけど、めんどくさいとかの理由でこないのは自分や地域のことを考えていないからきちんときて投票した方がいいのになと思いました。ぼくも20才になったら投票したいと思いました。遠い場所（海など）に住んでいる人でもちゃんと投票できるし、1番目にきた人は投票箱の中も見れるような楽しい工夫もしてあって、すごいと思いました。投票のことについて家の人から聞いてきて、質問をしたら、予想外な答えを言ってびっくりしました「手紙をなくしても投票できるか」という質問で必要なことを記録する人に伝えると、選挙できると教えてくれて、それがびっくりしました。選挙は本当におくが深いんだなと思いました。